

ノゴマ

Luscinia calliope

ツグミ科・夏鳥



ノゴマ (オス)

名前の由来

喉が赤いことから「喉紅(のご)」と呼ばれていたが、これが後に、コマドリと似ていることから野原のコマドリ→ノゴマになったという説がある。漢字名：野駒

特定種

該当なし

形態的特徴

全長(くちばしの先から尾の先まで)15.5cm、両翼を開いたときの長さ23cm。スズメより少し大きい。

体の大部分はオリーブ褐色で、下面は淡い。目の上に白い眉斑(眉のようなもの)があり、くちばしの脇からも白い線がほおにかけてある

オスののどは赤く目立つ。メスののどは白(赤みのあるものもある)。

声：繁殖期には草の上や低木の梢などにとまって「チーチョチチョチ、チョロロ、チリリ」というようによく通る高い声でさえざり続ける。

地鳴き(さえざりではない普通の鳴き方)は「ヒッヒッヒッ」と高い声であったり、「クワッ、クワッ」と低い声であったりするという。

歩き方：地上で餌をとるときにはホップするように、はねているという。

類似種と区別点：シマゴマ。

シマゴマは小さく、白い眉斑がない。



さえざるノゴマのオス



さえざるノゴマ(オス)の正面。のどの赤もふくらまず

生息環境・分布

灌木が多い草原状の場所に住む。ハイマツ帯にも多いが、森林には少ない。十勝では夏鳥。

分布：ユーラシア大陸中・高緯度地方の東半分に分布し、冬は東南アジアに渡って過ごす。

日本では北海道だけで繁殖する。本州以南では渡り期に各地で見られる。

北海道には夏鳥として5月上～中旬に渡来し、低地から高

山まで幅広く生息、繁殖する。

十勝には、5月上～中旬に渡来する。平野部の農耕地や河川敷と高山のハイマツ帯に生息し、繁殖する。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期												
東南アジア(越冬期)												

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ウ

樹木

(在来種) 花

(外来種) 花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) フシタカ

食性・他生物との関わり

昆虫やミミズなど。

地上の開けたところを軽くはねながら餌に飛びついてとらえる。しばしば藪の縁の裸地や路上にでてホップしているという。

ヒナに与える餌は主として昆虫であるが、ミミズなど地上で捕らえるものも多いという。

秋の渡りの際には小さな果実も食べるという。

捕食者は猛禽類など。



ノゴマ。
餌は地上で捕るとい
うが、よく見られる
のは低木の梢など

繁殖生態

繁殖期は6～8月、一夫一妻で繁殖する。

渡来してすぐにオスは盛んにさえずり、繁殖期はなわばり性が強い。(→興味深い話の項参照)

地上の、草株や藪の根元のわき、谷地坊主の脇、崖地などのくぼみを利用して、ドームのある球形の巣を作る。外装は枯れ草や細い草の根などを使う。お椀型の上にルーズな枯れ草のドームがあり、内装は細い草の茎や根で作られるという。

巣作りはおそらくメスのみで作るのではないかといわれるが、十分な観察例はないという。

3～5個産卵し、メスのみが卵を抱くらしいが十分な観察例がなく、オスがどうしているかについての報告もないという。

13～14日でヒナがかえり、オスメス共同で養う。巣立ちまでの日数は不明である。

興味深い話

■ 標識調査で、6年9ヶ月の生存が確認されている。

■ 海辺の草地などから中央高地のハイマツ帯でも姿が見られる。これは生息条件として、標高や気候以上に環境の様子(低木がまばらに生えた草原)が重要になっている例である。

■ オスはのどが鮮やかな赤なので、「日の丸」と呼ぶ人や、バラの花びらを加えたようだと形容する人もいる。

■ オスはさえずる際に、赤色ののどを大きくふくらませてさえずる。背筋を伸ばして尾を斜め上に立てたりもする。

■ さえずる場所としては灌木の上や草の上などがあるが、電線の上にとまってもさえずる。

■ 夜9時や10時になってもさえずり続けていることがよくある。

■ 春の渡りの途中でもしばしばさえずって来るという。

■ 渡りの時期には本州以南の各地を通過し、川原、海辺の草地、平地や低山の藪などで見られたり、窓ガラスにぶつかったものが見つけられたりするという。単独かあるいは小さな群で見られるという。



ノゴマのさえずり場所。
上からフキの上、
電線の上、
電柱の上

配慮事項

木、藪がないと繁殖できない。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)

「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995

「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000

「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994増補版7刷)

「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993

「鳥類観測ステーション報告」(財)山階鳥類研究所、1996

「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997

「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部、1987

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葎原・樹林)
鳥類